

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491100071		
法人名	社会福祉法人明峰会		
事業所名	グループホームオハナ		
所在地	大分県宇佐市大字四日市4452-1		
自己評価作成日	平成30年2月26日	評価結果市町村受理日	平成30年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail%2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4491100071-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail%2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4491100071-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	平成30年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①お食事は、自然溢れる「安心家族」の農場で採れた無農薬野菜やお米を使用しています。また、週に1回玄米粥を取り入れており、美味しく頂いています。  
 ②認知症の進行予防の為に学習療法実践士を育成し、学習療法の取り組んでいます。前頭前野や刺激することで脳が活性化されます。また、月に1回音楽療法士による音楽療法を実施しております。  
 ③日中の関わりでは、以前暮らしていた地域へドライブに出かけたり、施設内ではヘアカラーを職員が行ったりと、ご利用者様と触れ合う充実した時間を過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症により、自宅での生活が困難になられた方でも、家庭的な雰囲気の中、職員、利用者同士馴染みの関係を築きその人らしく暮らして頂けることを心掛けており、介護事業を展開する法人の実績や経験を活かして開設された2ユニットのホームです。「我が家と呼びたくなる暖かな空間」を目指し、利用者、家族の意向、状況の把握と尊重に基づき穏やかに暮らせる支援を行っています。認知症の進行抑止改善のためにとり入れている学習療法や音楽療法は利用者、家族にとって期待される取り組みです。高齢化による重度化という避けられない課題はありますが、理念を土台としたケア方針の徹底、思いやり精神の意識定着を図ることで職員の向上心も育まれ、モチベーションアップに繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を法人理念に一本化することで、目指す方向性が明確になった。今年度は、管理者リーダー研修で理念について研修を行い、参加者で話し合う機会があった。今後、事業所内で職員へ伝達する機会を持つ。	事業所の理念が法人の理念に一本化になった事で、法人の目指すところに向け意識の向上が図られています。事業所内で新人研修や職員の勉強会を通じ新しい理念の浸透に向け働きかけが行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	連携する事業所の盆踊りや毎週行われている健康体操に参加している。またボランティアの方の訪問や地域の中学生の体験学習の受け入れを行っている。	法人の納涼祭や地区の秋まつり、お接待、清掃作業への参加等、地区との交流を通して地区の一員としてふれ合いの場を大切にしています。中学生の職場体験や実習の受け入れ、ボランティアの訪問も行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、事業所の取り組みや、研修などで知り得た情報等を報告する様にしている。また、毎年2回行われている地域清掃活動にも職員と共に数名のご利用者様が参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご利用者様やご家族様にも参加して頂き、事業所の取り組みや事故報告等を行っている。今年度は、デイサービスとの合同で会議を開催した。広報誌の「オハナ日記」は、2ヶ月に1回のペースで発行している。	市役所、地区委員、家族、利用者、交番の参加による運営推進会議が開かれています。事業所の状況報告や出席者による意見交換、交番からの話題の提供があり地域の情報の共有により、サービスの向上へ繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課の担当者には、運営推進会議に参加して頂いている。また、運営上分からないことを電話や訪問して尋ねる機会が多く、介護保険課の担当者より丁寧にアドバイスを頂くことが出来た。	市の担当者には、運営推進会議への出席や事業所運営上の諸問題について日頃から電話や市役所に伺い、相談しアドバイスを受けています。積極的に連携を図り協力関係の構築が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束や高齢者虐待防止などの研修に参加している。身体拘束を行わないことを職員は意識できており、何か疑問があれば、職員間で話し合うように心がけている。	毎月の勉強会において、身体拘束や高齢者虐待防止について研修を積んで職員の共有意識へとつなげています。日々の業務の中で意見交換の場を持ち、安全で安心した生活が出来るよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は身体拘束や高齢者虐待防止などの研修に参加しており、報告書を提出してもらっている。新任職員には、伝達講習を行う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	安心サポートの利用を受けているご利用者様があり、継続して利用をしている。職員間で勉強会を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、事業所のケアに関する考え方や取り組みの話を交えながら、契約書を読み上げて説明を行っている。不安や疑問点があれば、その都度それに対して丁寧に説明する様に心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が面会に来られた時や運営推進会議の場などで意見や要望を伺っている。今年度、1件苦情を頂いた為、改善に向け職員会議の場で話し合いを持った。	面会時、家族会、運営推進会議等で意見や要望を伺っています。出された意見は、職員会議で話し合い改善へ繋ぎ、家族には結果を報告し相互理解を図っています。	利用者や家族が思いや意見を言いやすい場をたくさん作り、事業所運営に反映される事を期待します。アンケートによる取り組みにも期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や職員会議の場で意見や提案を聞けるようにしている。また、必要に応じ面談も行っている。	毎月の職員会議や、日々の業務の中で意見や提案を聞き前向きに検討し運営に取り入れています。話しやすい雰囲気作りに努め、意向の把握に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与の水準や労働時間は、法人の定める基準によって実施しており、職員の努力の姿勢や実績はきめ細かく評価をするようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員には、ケアに関するDVDを見てもらったり、研修をする機会を設けている。また、法人内研修では、管理者リーダー研修を受け、リーダー的職員の育成を行っており、事業所内で課題を挙げ取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加した際には、情報交換を行い、今後のサービスに向上に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった場合は、事前にご本人様と面会をして気持ちを伺う様に努めている。また、職員間で情報を共有し、初期には傾聴しコミュニケーションをしっかり取り、信頼関係を築く様に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様と話し合いの場を設け要望を伺かがい、職員間で方針を話し合い実施している。初期には、伺い難い内容については、信頼関係を築きながら、時期を見て話を伺うケースもある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前のご本人様の生活習慣や状態を伺うが施設でどう楽しく過ごして頂くか検討し支援をしている。定期的にサービスの検討を行うこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者一人ひとりが主体になり洗濯物たたみや食事のおかずの盛り付けなどお互いが支えあえるよう支援している。その中でご利用者様同士が気遣いを見せる場面も見られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会や施設行事の際は、ご家族様に参加の声掛けを行い、一緒に過ごして頂ける時間を作っている。また来所時は、普段の生活の様子をお伝えする様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週参加している健康体操では、馴染みの関係が出来ている。また以前暮らしていた地域の友人や敬老会の方の訪問もある。昨年末、数名のご利用者様と以前暮らしていた地域へ出向いた。	同じ法人内の施設の健康体操に参加したり、出張美容室の利用で馴染みの関係を築いています。施設からの訪問もあります。帰宅願望があれば、ふるさとへのドライブに行き気分転換をはかっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士、トラブルが起きることもあるが、その都度職員が中に入り場面転換を図っている。中には、皆さんの輪の中に入ることを好まないご利用者様もいる。その際は、無理強いせずに個別に対応をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後や病院へ入院中にお見舞いに行くなど、これまでの関係維持に努めている。また、お亡くなりになった場合は、ご葬儀や初盆などのお参りに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、ご本人様の要望を随時聞くように心がけている。しかし、思いや意向の表出が困難なご利用者様は、ご家族様との話し合いの場を持ったり、身体的な危険が考えられる時は、職員側の思いとなってしまうことがあるり、見極めが難しいことがある。	お風呂、入眠時、一人である時など一対一で話す機会を沢山作るよう努めています。日々の関わりの中で、言葉や表情から五感で感じ取るようにしています。希望や意向の把握が困難な方には、家族や関わりのある方から情報を得て支援に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に聞き取りで得た情報やご本人との会話の中から現在の思いを取り入れて馴染みの生活が送れるように努めている。また、伝達ノートなどを活用し職員同士共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やバイタルチェック表を活用し、心身状態の把握をしている。ケアプランに沿った支援を職員間で共有し、実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様から随時要望を伺い、職員会議等で話し合いアイデアを取り入れることもある。	利用者・家族に、日ごろから要望を伺い、業務日誌や職員全員の意見を取り入れ計画書の作成に当たっています。医療ニーズの高い方は往診時に伺い、変化の見られる方も計画の見直しをして利用者本位の介護計画に繋げています。	介護計画を職員が共有して、日々の実践経過を把握し、次へ繋げるため引き続き書式の検討をされる事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット毎にノートを置き、工夫等を気軽に書ける「気づきノート」を活用。職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行予防の為に、音楽療法士に月1回のペース訪問をして頂いており、来年度より月2回の開催を予定している。また、地域にあるオレンジカフェにも毎月1回出向いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な食材は、地元の商店より、お米は法人内の安心家族より購入している。無農薬の野菜を頂きメニューに入れることもある。初詣でやお花見などの季節の行事も地域へ出向けるように配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設見学時や契約時に、主治医やかかりつけ医を確認し、ご利用者様やご家族様の意向に添えるように努めている。緊急時などは医療機関と連携を取り、指示を仰いでいる。	家族の希望するかかりつけ医を支援しており、月2～3回の往診を受けています。家族、職員の通院介助とともに、利用者の健康管理に努めています。事業所の洗面台には緑茶を置き、うがいの時に必ず使用し感染症予防を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子や気づきを報告し、ご利用者様が適切な処置を受けられる様に、主治医や看護師へ報告をしている。また、電話で状態報告を行い指示を仰ぐ場合もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、サマリーを作成。施設でのご利用者様の状態を申し送り、入院中、退院後はムンテラに参加するなどし、状態把握を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化や終末期に向けての意向を伺っているが、入所直後には想像がつかないと言言葉も聞かれる。今年度は、1名のご利用者様を事業所で看取ったケースがある。	契約時に利用者、家族と事業所で話し合い重度化、終末期の方針を確認しており、重度化した場合は主治医に相談し家族と連携を取りながら支援しています。職員も勉強会を行い知識、理解を深めチームとして看取りについて取り組んでいます。	看取りに関しては、契約時に同意は得なくても、重要事項説明書等に、事業所での看取りが可能であることを資料(終末期指針)をもとに説明を行えば、家族の選択肢も広がり安心に繋がると思われます。「重度化、終末期ケアの指針」を作成されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行うと共に、事故等があった場合は、その都度職員会議の場で話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月火災避難訓練を行っている。また年2回は消防署職員の立会いにて、夜間想定避難訓練を行っている。災害時に備えて非常食を3日分を備蓄している。	消防、避難訓練は夜間想定を含め消防署立ち合いの下、年2回実施しています。通報装置の説明会等、消防士よりアドバイスを頂いています。備蓄も確保されています。	訓練を実施して見えてきた課題を分析し、全員でその解決策を見出すための話し合いを重ねることを期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格尊重と誇りやプライバシーを損ねない声掛け、対応を心がけている。意思表示が困難なご利用者様には、表情などを見て判断を行い、さりげなく場面転換を行う。職員は個人情報保護法の研修も受け、プライバシーの確保に努めている。	トイレ誘導の際には大きな声での声かけはしない等、プライバシーに配慮し、利用者への言葉遣い等にも失礼にならないよう気をつけて支援を行っています。職員は常に五感で感じ取るよう心掛け支援に繋がっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご利用者様が自己決定できる様に、声掛けやタイミング等に配慮して働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間はその人のペースに配慮し、食事の時間は、ゆっくりとした環境が提供出来る様に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室を利用したり、ご家族様対応で行きつけの美容院に行かれるご利用者様もいる。また、施設内で職員がヘアカラーをすることもあり、毎朝きれいにお化粧をされるご利用者様もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼夕食は、法人内の厨房より食事を提供してもらっているが、月2回は事業所で調理をする機会がある。その際は、ご利用者様の意向を取り入れている。おせち料理は、職員が手作りをしてお重に詰めている。	食事形態についても、ミキサー、刻み、常食等、入れ歯や、噛む力、咀嚼力を考慮し、それぞれに応じた食事形態になっています。職員も隣に座り観察と声かけを行っています。行事食は事業所の職員が利用者にご手伝ってもらい手作りしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアハウスの栄養士がカロリー計算した献立で食事を提供している。個人にあった食事形態を検討し実施している。より美味しく食べて頂く為に、全粥は炊飯器で炊いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。職員が側に付き、見守り確認をすることもある。歯磨きを拒否される方もいるが職員が何度か声掛けを行う。冬期は、風邪やインフルエンザ予防の為に、食前にお茶うがいを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせて声掛け誘導を行っている。意思表示で困難な方に対しては仕草や行動から排泄サインを捉えトイレ誘導をしている。	排泄チェック表により、利用者一人ひとりの排泄習慣を把握しており、リハビリパンツ、尿取りパット等を利用しながら、その人の状態に合わせて全員トイレでの排泄を支援しています。基本的に居室にはポータブルトイレは置かないようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の献立に野菜や食物繊維を多く含む食材を取り入れる様に心がけている。また今年度は、毎朝、主食に寒天を入れて炊飯、週に1回玄米粥(屋食)を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の見られるご利用者様には、入浴日や声掛けを行う職員を変更したり、またもう一方のユニットで入浴をして頂く場合もある。仲の良い者同士一緒に入浴することもある。	利用者の希望を確認しながら、週3回の入浴支援を行っています。本人のペースで洗身、洗髪を行い、職員とゆっくり、お話をするのが楽しみの一つになっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体操やレクレーションを行い、気持ちよく睡眠が取れる様に心がけている。高齢の方や重度化された方は、日中に居室にて休んで頂くこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は、個人のケースファイルに綴じ、いつでも見ることが出来る。緊急時にはそれを持ち出し易い様にしている。服薬介助時は、日時、氏名を声に出して確認してから与薬している。また、内服薬の変更等あれば、業務日誌に記載し、共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせて、おかずの盛り付けやテーブル拭きなどの声掛けを行っている。レクレーションでは、数字並べやパズルなど、またカラオケ等を楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出行事(花見など)を計画、実施している。全員での参加は難しいが、日を改めるなどしている。また、ケアハウスの厨房までご利用者様と食事を取に行き外の空気に触れている。	気候や利用者の希望に応じて、事業所周辺の散歩や買い物に出かけられるよう支援しています。事業所近辺には花園が多く、これからは「藤」「バラ」が見頃で利用者とともに見学に訪れる等気分転換を図る支援を行っています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に事業所で管理している。個別にお財布を持っているご利用者は極限られている。外出先で金銭のやり取りを行う場合は、トラブルにならない様に配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族様より電話がかかるケースがあり、取次ぎを行っている。また、ご家族様より、定期的に広報誌が届く方もおり、楽しみにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に食事の際は、ゆっくりとした環境を提供したいと考えており、適度な音量で音楽を流し、ゆっくりと会話ができるように心がけている。また室温の調整、換気などを行い、居心地の良い環境を提供できるように努めている。また、冬場などインフルエンザ流行時期には、特に注意して換気を行っている。	自然光が差し入込む共用空間は、ゆったりと広く清潔感が感じられます。テーブル席とソファを設置し、利用者が思い思いに寛げる環境があります。フロアのオープンキッチンから調理(配膳)の香りや音が家庭的な雰囲気を感じさせています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファで気の合うもの同士、テレビを見ておしゃべりしながら過ごされたり、カラオケを楽しんだりされる。また天気の良い日は外で日向ぼっこをすることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、ご本人様の使い慣れたものを持って来てもらうようご家族様に話している。使い慣れたタンスや枕などを持ってこられる方もいる。個人ごとにお箸、お茶碗、お湯飲みを準備している。	冷暖房設備、クローゼット、ベッドが事業所で用意されており、利用者は家族の協力で使い慣れた家具、思い出の置き物等を持ち込んでいます。個々の好みに合わせた部屋作りをしており、落ち着いた雰囲気の中で暮らせるよう心掛けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「出来ること」「出来ないこと」の把握に努めている。安全に配慮しながら食器洗いやおかずつぎ、包丁の取り扱い等行ってもらっている。また、車椅子等が歩行の妨げにならない様に配慮をしている。		